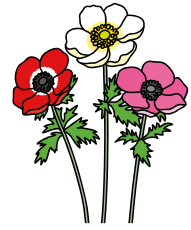


# 事務局便り

令和 5 年 3 月 8 日



## —令和 5 年度春期研修会 締め切り 3 月 15 日（金）—

日程：令和 6 年 3 月 26 日（火）10：00～16：00

会場：家庭クラブ会館 2 階ホール オンライン：Zoom による

テーマ：家庭科における授業に活かす ICT

講師：お茶の水女子大学附属中学校 家庭科教諭 有友愛子先生

午前中は講義、午後からグループワークを行います。会場参加者を中心に各自持参の ICT 機器を操作して、どんな授業ができるか？皆さんと学び合いたいと思います。オンライン参加者は、午後の演習は見学のみとなってしまいますが、昼休みや会場の対応が終わったら、講師との質疑応答ができます。会場は、参加者 50 名までとしますが、まだまだ大丈夫です。オンライン参加者の上限はございませんので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。◎詳細は、同封の案内チラシをご覧ください。

## —令和 6 年度会費納入について— \*賛助会員は別紙をご覧ください

令和 5 年度も年会費の納入をいただき、有難うございました。無事、本年度の事業を終えることができる見込みです。令和 6 年度の年会費（6,000 円）の納入をお願いいたします。公費でお支払いの場合は、同封の書類をお早めに事務担当者にお渡しください。本協会は、皆様方の会費で運営をしております。その年度の活動を推進するためにも、なるべくお早めに、できれば研究大会前にお納め頂きますようお願い致します。

\*会費納入についてご不明の点がありましたら、事務局までご相談ください。

## —異動の方はご連絡ください！—

転勤等異動の方は、新たな機関誌送付先を 4 月中に文書（Fax またはメール）にてお知らせください。また残念なことですが、退会を希望される方は、3 月末日（遅くとも 4 月末日）までに退会届（ホームページにあります）をお使いの上、Fax またはメールにてその旨をお知らせください。

## —令和 6 年度第 74 回研究大会 準備を進めています！—

開催日：令和 6 年 8 月 6 日（火）・7 日（水）の 2 日間

方 法：ハイフレックス型開催 会 場：家庭クラブ会館 2 階

講演講師：京都女子大学 発達教育学部 表真美先生「海外の家庭科教育」（仮）

講評・高等学校部会講師：文部科学省初等中等教育局 教科調査官 田邊暁子先生

講評（小中学校）講師：文部科学省初等中等教育局 教科調査官 熊谷有紀子先生

小中学校部会講師：広島大学大学院人間社会科学研究科 鈴木明子先生

以上の講師の先生方に依頼をし、準備を進めております。次号機関誌 1 号に案内チラシを同封いたします。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

# 一機関誌『家庭科』5号 編集後記・次年度 編集予定一

朝日新聞社の竹山栄太郎様からは「世界幸福度ランキング」の解説を中心に、(一社) 子どもの声からはじめよう代表理事の川瀬信一様には「幸福と自己決定の関係」について、本協会会員で小学校教諭の佐藤翔様に「育児休業を取得して考えたこと」をご執筆いただきました。幸せを感じる社会の構築のために私たち家庭科教員は家庭科の授業を通して何ができるのか? 考えていきたいと思ひます。

令和6年度は、年間テーマを「今だから家庭科」、1号テーマは「アフターコロナ」2号テーマは「少子化」と決めて編集しております。シリーズは「わたしと家庭科」として、家庭科教育に貢献されてきた先生方にご執筆いただきます。1号は、本協会会長の河野公子様です。次年度も機関誌『家庭科』にご期待ください!!

## \*シリーズ~全国家庭科教育協会の歴史(4) 全国高等学校家庭クラブ連盟の結成まで~

### ②機関誌『家庭科』における“全国家庭クラブ連盟に関する記事”

前号では、全国家庭クラブ連盟結成前から、ZKKが「学校家庭クラブの歌曲募集」事業を行っていたことを紹介した。全国家庭クラブ連盟は、昭和28(1953)年8月6日・7日に結成されるが、それまでの歩みを機関誌『家庭科』の記事を追ってまとめた。

機関誌No20~21(1952年8月)には、昭和27年7月28日文部省主催被服講習会に参加している各府県代表者と全国家庭科教育協会代表者が“協会のつどい”を開催し、「FHJは各府県の連盟が出来ているが、本年は東京都連盟が全国に呼びかけて、全国一丸となったFHJを結成したいというところまで盛り上がっている。」との記事があった。また、同じ記事内に、「FHJのバッジを全国統一したいとの声に応じて、目下図案の募集中であるが、九月末までに東京都FHJ本部宛(都立竹台高校)に到着するよう、ふるって応募すること」との記述もあった。この後バッジについては機関誌には記述がなく、ZKKの事業として行わなかったことが予想された。歌曲のFHJレコードの宣伝は、1954年まで行われていた。

右下の記事は、FHJ本部校である都立竹台高校の佃教諭が、第三回日本農業クラブ連盟(F・F・J)全国大会に参加した時の記録の一部である。最後に「先生方、全国家庭クラブ連盟の結成をいたそうではありませんか」と結ばれている。日本農業クラブ連盟を参考に全国家庭クラブ連盟の結成を準備していたと予想される。機関誌No.24~25(1952年12月)

には、「東京都家庭クラブ連盟総会」の記事があり、最後に「今年度実現されなかった全国家庭クラブ連盟は近い将来には必ず完成するよう心に願ってやみません」とある。そして、翌年度の機関誌No28~29(1953年4月)には、全国家庭クラブ連盟総会プログラムが掲載された。8月6日7日開催で役割分担も明記されている。そして、機関誌No.32~33(1953年9月)に、全国家庭クラブ連盟結成大会の記録が掲載、結成に至ったのである。

なお、機関誌No22~23(1952年10月)には、「家庭クラブ運営上の諸問題」、機関誌No24~25には、「我校の家庭クラブ状況」を生徒である家庭クラブ会長が寄稿している。各校で家庭クラブ活動が展開し、これらの記事を参考に活動が増えることを期待したと考えられる。

家庭クラブの将来

十月九日秋晴れのよい日、第三回日本農業クラブ連盟(F・F・J)全国大会が共立講堂で盛大に開催された。家庭クラブは、交友団体の関係で東京都家庭クラブ連盟会長(都立竹台校)が挨拶を述べ、都立南多摩高校はクラブの歌のダンスを、上野学園は三つの家庭クラブの歌の合唱を特別出演した。全国から集った会員は、開会即ちで講堂に控えるばかり。

十時F・F・J行進曲にはじまり、次のようなプログラムで時間通りに進行した。

開会  
連盟歌入場(F・F・J行進曲)  
開会の辞  
国歌斉唱  
学校農業クラブの歌合唱  
会歌挨拶  
議長即選出  
議長即挨拶  
宣誓  
会務報告  
昭和二十七年庶算承認

昭和二十七年役員承認  
級位(総裁章)授与  
祝辞  
参議院議員  
文部大臣  
農林大臣  
アメリカ大使  
米軍関東司令部教育部長  
F・F・Aメッセー  
毎日新聞社  
4丘クラブ代表  
学校家庭クラブ代表  
前会長挨拶  
(昼食・休憩)  
協議会に対する意見発表  
横断幕式、学校農業クラブ舞踊  
レクリエーション・コンクール  
特別出演 学校家庭クラブの歌  
学校農業クラブの舞踊  
閉会  
退場(F・F・J行進曲)